少子化対策、ダイバシティの観点から、交通機関におけるベビーカー利用へのさらなる対応改善を求めます。

１．少子化対策の観点

　　女性が子供を産みたいと思うには、保育所があるか、それが無料かということよりも、社会とのかかわりにおける心理的負担を減らすことの影響が大きいと考えます。

ベビーカーで自由に外出でき、外出時に社会からやさしく見守られているという環境を作っていくことが重要ではないでしょうか。

２．ダイバシティの観点

欧米では、ベビーカーの外出時の不便を周囲の人々がサポートすることがあたりまえ

となっています。車いすやベビーカー同伴の人々が普通に外出や自然とのかかわりを楽しんでいます。残念ながら日本では社会的インフラが不十分であることのせいにし、一人一人のいわゆる心のバリアフリーが未成熟です。

あすぷろ実行委員会では、「あなたの手は、だれかの翼。」「わたしの手は、だれかの翼。」のスローガンに共感する人々を増やす活動を行っています。

３．アンケートの成果を交通機関におけるベビーカー利用の促進に役立てていただきたい。

**アンケート結果要約**

1. 電車・バスにおける、ベビーカー乗車への理解を求めるキャンペーンの成果がアンケートのデータにも現れている。

**以下、電車に関して**

1. ベビーカー利用者はクレームを受けてまで乗りたくないと考えている。
2. また、他の乗客といい関係でありたいという気持ちが見えてくる。
3. 乗客にはベビーカーをたたむことが難しい場合があることを知ってもらう必要がある。
4. 通勤時にもやむを得ずベビーカーを使用せざるを得ない人たちがおり、気兼ねなく乗れる環境が望まれている。
5. ベビーカーを優先しておける場所のある車両が各社で導入されているが、支持されており、さらに全車両への導入が望まれている。
6. 駅構内のエレベーターに関してはベビーカー利用者の不満が極めて大きい。
7. エレベーターによっては、ベビーカー・車いす・スーツケースに限定にする措置が望まれている。
8. ベビーカーで利用しやすいよう、駅内のトイレの改修も望まれている。

１０．ベビーカーでの外食に不便があり、入店ＯＫの店がわかることを望んでいる。

**以下、バスに関して**

１１．ベビーカーへの対応方法について、乗客への啓発活動が望まれる。

１２．ベビーカーでの乗車・下車に苦労していることがうかがえる。

１３．ベビーカーを止めるバンドはほぼ認知されているが、使い方がわからない人が多い。

**以下、飛行機に関して**

１４．ベビーカーで旅行することについて検討し、空港内でのベビーカーレンタルの便宜も知っている人が半数近くいる。ベビーカーを預けられる専用の場所の告知により、飛行機利用が増えるものと推定される。

１５．ベビーカーが無料で預けられるならば、飛行機を利用しやすくなると多くの方が思っている。

１６．飛行機内で気兼ねなく子どもをあやせるよう、配慮が望まれている。

**この調査を活かすためのご提案**

1. ベビーカー乗車への理解を求めるキャンペーンを進化させ、恒常的な乗客への啓蒙活動とする（電車・バス）。

その際には「あなたの手は、だれかの翼。」のスローガンとアシスターサインの活用をぜひご検討いただきたい。

アシスターサインと上記スローガンにベビーカーマーク、ヘルプマーク、マタニティマークを一つにまとめて、車両内、駅構内などでの掲示場所を増やせば、接触頻度が増えることで、下記の効果が見込まれる。

①社会からやさしく見守られているという意識を高め

②ベビーカーなどの乗車を応援する人を増やす

1. 電車のどのドアから出ても、ベビーカー利用者にエレベーターの場所がわかるよう、サイン設置状況の点検を求める。
2. 鉄道各駅におけるエレベーターの設置状況を各社で調査し、ＨＰで公表させる。
3. エレベーターの無い駅における駅員のベビーカー移動アシストサービス、バスにおける運転手のアナウンス指導を徹底する。

**アシスターサイン**

　 あなたの手は、だれかの翼。

　　わたしの手は、だれかの翼。